

本県では、熊本県教育大綱及び第3期くまもと「夢への架け橋」教育プランに英語教育の充実を掲げ、指標として中学校3年生のCEFR A1レベル(英検3級相当)以上の取得率を令和5年度までに40%とすることを目指しています。

R3 全国平均取得率:27.2% 県平均取得率:32.2%(R2比 +5.9ポイント)

※取得率等の数値は、国が実施した「令和3年度英語教育実施状況調査」に基づいています。

1 中3生徒のCEFR A1レベル(英検3級相当)以上の取得率等

管内等	管内等平均取得率	令和3年度目標値(33%)を達成した市町村数	平成30年度から5ポイント以上向上した市町村数	市町村の取組例
宇城 (3市町)	44.3%	2	2	<p>○市が受験料を補助し、原則として中3生徒全員が受験。各学校が自校の集団の傾向を掴み、指導の改善に生かす。</p> <p>○児童生徒の英語力・教師の指導力の向上を目的とし、小学5年生～中学3年生を対象にGTEC4技能検定(ベネッセ)を行っている。市が受験料の全額を補助し、保護者負担なしで受験。</p> <p>○1年に1回、第2回英検の受験を原則「全員受験」とし、その際の受験料は県の補助金と合わせて100%補助し、保護者負担なしで受験できるようにしている。</p>
玉名 (6市町)	25.7%	1	2	<p>○第2回英検受験で中3生徒の受験料(県1/3以内、市2/3)を補助し、保護者負担なし。市担当者会議を開催し、全中学校で今後の取組を確認。</p> <p>○第2回英検受験で中3生徒の受験料(県1/3、市2/3)第3回英検受験で中1、中2生徒の受験料全額を市が補助し、保護者負担なし。英語教育研究会を立ち上げ、小中英語担当の資質向上及び小中連携を図る。</p> <p>○県の補助対象である中3生徒へ町が受験料の1/3以上を補助し、保護者負担は1/3。リスニング能力向上等のため、ALTを2名雇用している。</p> <p>○小学校低学年に外国語活動の時間(18時間)を確保し、ALTを配置。中学生の年1回の受験料の1/3以上を補助し、中3時には全員が英検に挑戦できるよう、年間学習計画に位置付けている。</p> <p>○町立中学校の全学年を対象に英検とGTECを受験した生徒の受験料を町が補助する。(中1及び中2は町が2/3、中3は町が1/3以上を補助)</p> <p>○町内在住の小中学生を対象に、英検受験料の半額を補助。また、町内在住の中学生を対象に、外国人講師との個別のオンラインレッスンを開設し、生徒の英語力の向上及び英検取得に向けた支援を行っている。</p>
山鹿市	25.8%	0	1	<p>○教師の英語授業改善及び児童生徒の英語力向上を目指し、市教委の複数回による授業づくりの支援訪問と菊池教育事務所山鹿市担当指導主事による学校支援訪問による指導助言を協力して行う。市で中学3年生に対し、年に1度受験料を補助。</p>
菊池 (4市町)	35.8%	2	3	<p>○英語指導力向上研修を年1回実施。また、初任者を除く教職経験5年目までの教員を対象に年に2回の授業参観と事後指導を実施。英検の受験料については、市が半額(準要保護等は全額)を負担。</p> <p>○中3対象の県・市補助での英検に向けて学校独自の取組を実施。また市英語担当者の実施、小3～6の全学級への英語専科又は英語講師の配置等で、児童生徒の学力充実に努めている。</p> <p>○令和3年度から、英検再チャレンジにも補助を行うとともに、県立高校ALTとのオンライン交流をはじめとするALT等を活用した小中高連携モデル校事業に取り組んだ。</p> <p>○町の重点取組に英語教育の充実を掲げ、各学校が英語指導力向上を図るために講師を招き研修を行っている。また、小学6年生、中学2・3年生には英検Jr.版と英検の検定料を、町が補助している。</p>

<p>阿蘇 (7市町村)</p>	<p>39.8%</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>○同年度に一人1回、小学校5、6年生及び中学校1、2年生に対し市独自に受験料の補助を行っている。</p> <p>○町独自で、受験を希望する生徒に対し、2回分の受験料を町が全額補助し、英語スキルの向上とともに、チャレンジする意欲の向上に繋げている。公設塾やALT等の英語指導者の充実により、子供たちが英語に触れる機会を多く設けている。</p> <p>○県の補助対象である中3生徒1回分に加え、中1・中2生徒全員分の受験料1回分を、町が単独で全額補助している。</p> <p>○保護者負担を600円とし、3～6年生は1回分、7～9年生は3回分の受験料を村が補助。英語がコミュニケーションツールとなっているヒゴタイ国際交流では、世界に視野を向け、コミュニケーション能力の高い子どもたちを育てている。</p> <p>○県の補助対象である中3生徒1回分に加えて、小学5年生から中学2年生を対象に1回分の受験料を町が独自に全額補助。</p> <p>○小学5年生から中学3年生までの全児童生徒を対象に、1回分の受験料を村が独自に補助(県補助利用)。年度内に2回受験をする中学3年生のうち3級以上の受験者は2回目も補助。中学3年生を対象に、夏休みから2月まで村独自の村営塾(数学と英語中心)を開いている。</p> <p>○英語力の水準及び英語学習に対する意識・意欲の向上を目指し、村が受験料の2/3を補助し保護者負担なしで、原則として中3生徒全員が受験している。また、ALTの協力もあり、面接等の指導が充実できた。</p>
<p>上益城 (5町)</p>	<p>23.3%</p>	<p>0</p>	<p>1</p>	<p>○教師の指導力向上のため、教育委員会の指導主事が、定期的に学校を訪問し、授業のアドバイスを実施。「英語教育推進委員会」を実施し、小中学校の英語担当が課題を共有。</p> <p>○中3生徒は県と町を併せて受験料の2/3を補助、中2・1生徒は町が受験料の1/3を補助している。保護者負担を軽減することで積極的な受験を促している。</p> <p>○今年度の英語教育の状況を踏まえ、次年度からは1年生の時点で、今後3年間の資格取得目標を立てるよう、中学校に指導を行った。</p> <p>○中学校英語検定チャレンジ事業を活用した英検受験の推奨及びそれに対応した各校の取組の推進を図った。併せてALT配置を増やし、児童生徒の英語にふれあう機会の確保を図った。</p> <p>○県の補助に加え、町も1/3の補助を行うとともに、町で平成29年度より「英語教育推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、小・中学校一貫した英語教育の振興に努めている。</p>
<p>八代 (2市町)</p>	<p>23.6%</p>	<p>0</p>	<p>1</p>	<p>○英検受験料を県の補助に加え市が独自に半額補助。補助制度を保護者に周知するため、学期ごとにチラシを配付。EdTech導入補助金事業で英語学習アプリを導入し、英検対策として活用。</p> <p>○町内の小中学校の外国語担当者会と教育委員会が一体となり、情報交換を行ったり、小中相互に授業参観を行ったりして授業改善に取り組んでいる。町が英検受験料の半額を補助し、受験しやすくしている。</p>
<p>芦北 (3市町)</p>	<p>38.6%</p>	<p>2</p>	<p>3</p>	<p>○県の補助制度を活用し、中学校3年生を対象に市が受験料の2/3を補助し、就学援助対象世帯には保護者負担なしで受験できるよう全額を補助し、受験機会を拡大するよう努めている。</p> <p>○ALT派遣会社と連携し、ALT3名体制で英語教育に取り組んでいる。また、教育委員会配置指導主事の授業参観及び指導を行っている。英検の受験料については、1回分全額を町が補助している。</p> <p>○英検受験料1回分を中学3年生は2/3を町が補助、中学1、2年生は全額を町が補助。ALT2名体制で英検受験の個別指導を行い英語力の向上を図る。</p>

球磨 (10市町村)	26.1%	4	4	<p>○市内3校の中学校が学期ごとにそれぞれ英語の研究授業を実施し、英語アドバイザーがその指導に当たっている。各中学校の1年生に各学期1回の、独自単語テスト(50点満点)を実施している。</p> <p>○小中学生が対象の英検受験料補助で、4級以下を受験する場合は1,000円、3級以上を受験する場合は1,500円を保護者負担とし、それ以外を補助している。小学5・6年生対象の英語発表大会を定期的に実施し、小中学校間の英語教育を円滑に接続する。</p> <p>○町内の全中学生を対象に、受験料の2/3程度を年1回補助している。(中学3年生は、県の英語検定補助事業を活用)教職員の指導力向上のため、町の英語部会で小中連携授業研究会を年2回実施している。</p> <p>○町で独自に中学1、2年生にも1回分の受験料を半額補助している。小学6年生と中学2年生を対象に、オンラインによるネイティブ講師とのマンツーマンでの英会話レッスンを取り入れた授業を年に数回実施している。</p> <p>○町が受験料の1/3を補助し、更に1回分を全額補助することで、保護者負担をなくした。また、町独自で小1～中3までを対象とし、英検にチャレンジする機会を増やしている。</p> <p>○検定受験料を全て全額補助を行っている。(同級を受験する場合は年度内2回まで)また、海外とのオンライン英会話を年間8回実施している。小中連携での英語部会及び担当者会議を年間通じて実施している。</p> <p>○県の補助対象である中3生徒1回分1/3の補助に加えて、中1から中3生徒に対して、村独自に受験料の2/3を補助している(同年度、同一級の受験につき1回まで)。</p> <p>○村が受験料の全額を補助し保護者負担なしで、原則として全生徒が受験。学校が自校の集団の傾向を掴み、指導の改善に生かすようにしている。</p> <p>○村が受験料の2/3を補助し保護者負担なしで、原則として中3生徒全員が受験するようにしている。更に中1・2生徒全員1回分の受験料を村が独自に全額補助を行っている。また、3級取得者の中から8人を選出し、シンガポールでの語学研修を実施している。</p> <p>○1人1回分の受験料を負担している。原則として全校生徒が受験。また、本村教育委員会指導主事が学校を訪問し、授業参観・指導を行っている。</p>
天草 (3市町)	27.5%	1	2	<p>○昨年度と比較した受験率を校長会議、教頭研修等で知らせ、受験者数増加を依頼。教員の指導力向上のために外国語担当者研修会を年3回開催。</p> <p>○中3で英検3級以上を目指し、小6で英検IBAに挑戦(受験料は市が負担、R2～)し、中1から各級に挑戦できるように中学1、2年生に対しても年に1回受験料の2/3を市が補助する。(R3～)</p> <p>○県の補助対象である中3生徒1回の受験料の1/3を補助。夏休みに外国人講師を依頼し、英語体験事業を行った。</p>

2 中3生徒のCEFR A1レベル(英検3級相当)以上の取得率が県の目標値(33%)を上回った主な市町村とその取組内容

宇城市	児童生徒の英語力・教師の指導力の向上を目的とし、小学5年生～中学3年生を対象にGTEC4技能検定(ベネッセ)を行っている。市が受験料の全額を補助し、保護者負担なしで受験。
和水町	小学校低学年に外国語活動の時間(18時間)を確保し、ALTを配置。中学生の年1回の受験料の1/3以上を補助し、中3時には全員が英検に挑戦できるよう、年間学習計画に位置付けている。
菊陽町	町の重点取組に英語教育の充実を掲げ、各学校が英語指導力向上を図るために講師を招き研修を行っている。また、小学6年生、中学2・3年生には英検Jr.版と英検の検定料を、町が補助している。
南小国町	町独自で、受験を希望する生徒に対し、2回分の受験料を町が全額補助し、英語スキルの向上とともに、チャレンジする意欲の向上に繋げている。公設塾やALT等の英語指導者の充実により、子供たちが英語に触れる機会を多く設けている。
産山村	保護者負担を600円とし、3～6年生は1回分、7～9年生は3回分の受験料を村が補助。英語がコミュニケーションツールとなっているヒゴタイ国際交流では、世界に視野を向け、コミュニケーション能力の高い子どもたちを育てている。
南阿蘇村	小学5年生から中学3年生までの全児童生徒を対象に、1回分の受験料を村が独自に補助(県補助利用)。年度内に2回受験をする中学3年生のうち3級以上の受験者は2回目も補助。中学3年生を対象に、夏休みから2月まで村独自の村営塾(数学と英語中心)を開いている。
西原村	英語力の水準及び英語学習に対する意識・意欲の向上を目指し、村が受験料の2/3を補助し保護者負担なしで、原則として中3生徒全員が受験している。また、ALTの協力もあり、面接等の指導が充実できた。
芦北町	ALT派遣会社と連携し、ALT3名体制で英語教育に取り組んでいる。また、教育委員会配置指導主事の授業参観及び指導を行っている。英検の受験料については、1回分全額を町が補助している。
津奈木町	英検受験料1回分を中学3年生は2/3を町が補助、中学1、2年生は全額を町が補助。ALT2名体制で英検受験の個別指導を行い英語力の向上を図る。
五木村	村が受験料の全額を補助し保護者負担なしで、原則として全生徒が受験。学校が自校の集団の傾向を掴み、指導の改善に生かすようにしている。
山江村	村が受験料の2/3を補助し保護者負担なしで、原則として中3生徒全員が受験するようにしている。更に中1・2生徒全員1回分の受験料を村が独自に全額補助を行っている。また、3級取得者の中から8人を選出し、シンガポールでの語学研修を実施している。